

人のぬくもりとふれあいが奏でる躍動のまち 丹波高原文化の郷 ●京丹波

京丹波

No.41
2009年
3月13日発行

親子の
ふれあいを
大切に



新たな「介護保険事業計画」の策定に向けて

京丹波町では、平成21年度から23年度までの介護保険事業と高齢者福祉施策の方向性を定める「京丹波町高齢者福祉計画及び第4期介護保険事業計画」(計画)を策定するために、「介護保険事業計画等策定委員会」(委員会)を設置して協議を重ねています。今回、これまでに委員会で協議された内容や住民アンケートの集計結果について、みなさんにお知らせします。



今月の表紙

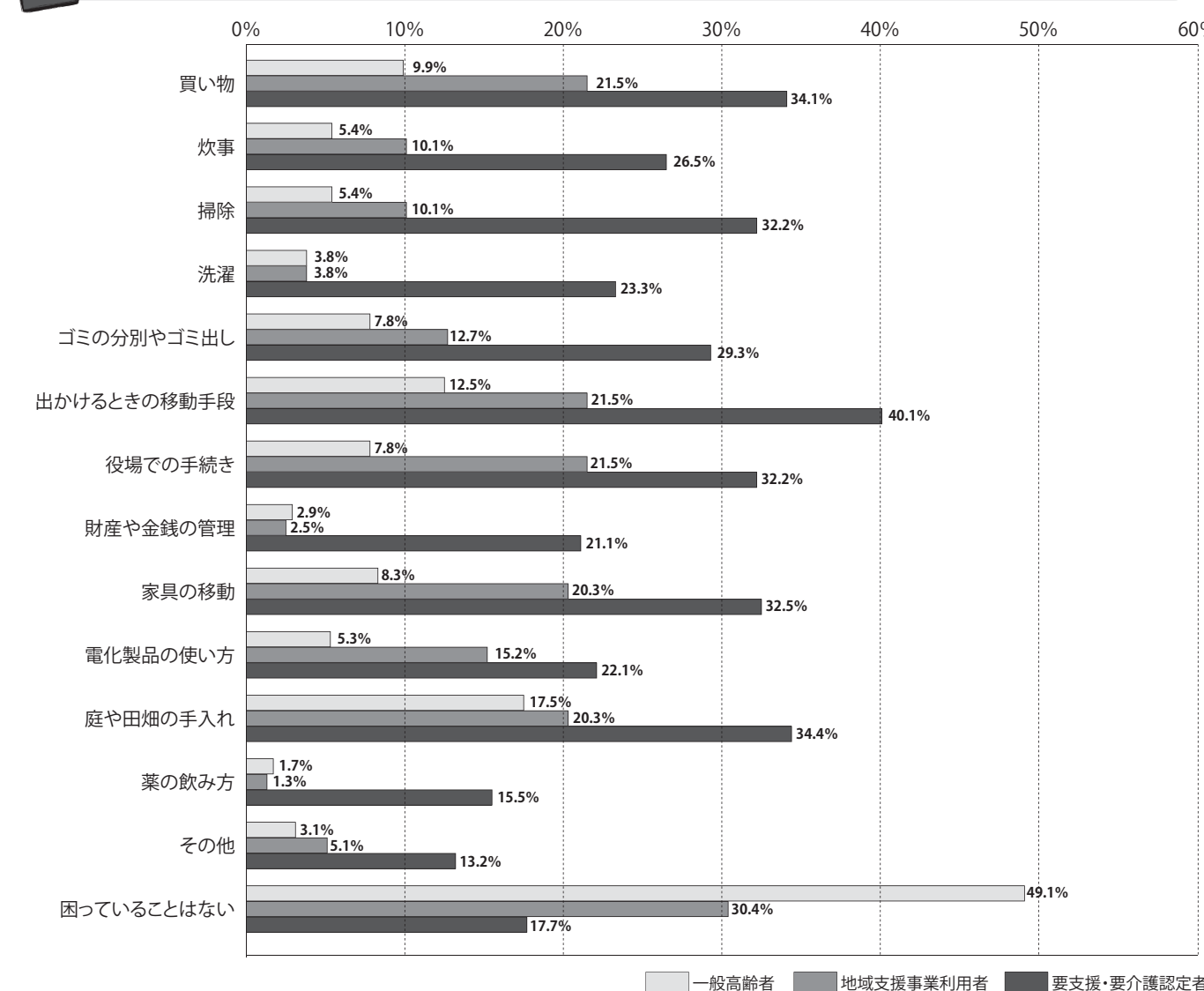
2月6日にわちエンジェルで行われた「ちびっ子広場」。参加者らは、絵本サークル「きいろいばけつ」のみなさんが用意したたくさんの絵本を見ながら、親子のふれあいや参加者同士の交流を深めていました。

アンケート集計結果の主なものをお知らせします

住民アンケート回答状況 (単位:件、%)

	配布数	有効回答数	回答率
一般高齢者調査	1,000	719	71.9%
地域支援事業利用者調査	100	79	79.0%
要支援・要介護認定者調査	500	317	63.4%
計	1,600	1,115	69.7%

問1 ぶだんの生活で困っていることはありますか。(複数回答)



計画策定に向けて活発な議論が展開

委員会は昨年十一月二十一日、福祉・介護・医療その他関係団体や学識経験者などの十二人の委員で発足し、これまで月一回のペースで協議されてきました。第一回委員会では、委員長に谷垣勇さん(町民生児童委員協議会)、副委員長に片山俊明さん(町公共料金等審議会)を選出。現状を踏まえた今後のスケジュールや住民アンケート調査について協議され、「人口が減少する一方で、要介護認定を受けの人が増え、介護サービスの利用者も増加傾向にある。介護保険の財政運営は今後どうなるのか」、「介護予防事業を充実することで、できるだけ元気な高齢者を増やし、要介護認定

みなさんの思いを計画に生かすために

町は昨年十一月、計画策定の参考にするために、無作為抽出した千六百人の町民を対象にアンケート調査を実施。アンケート

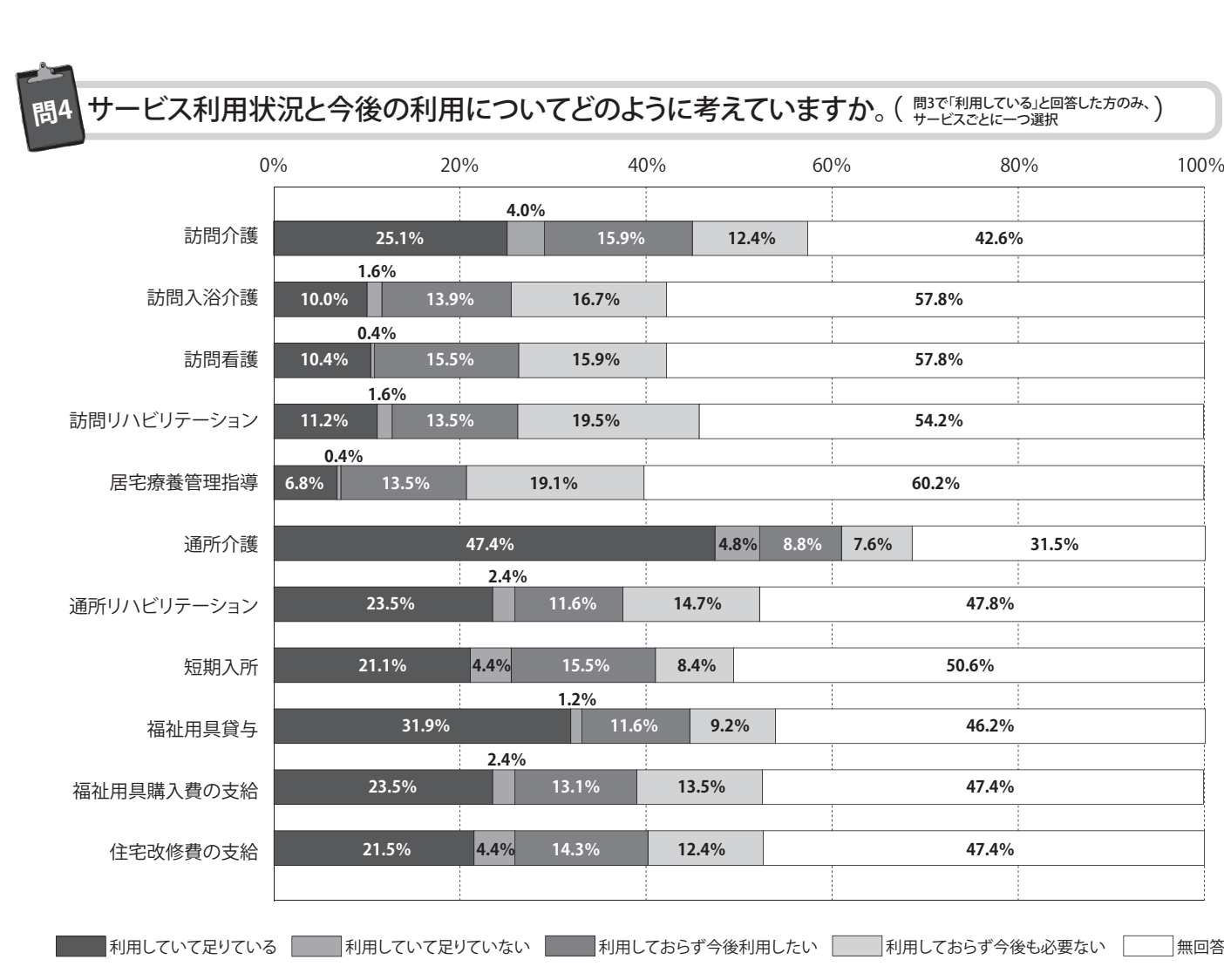
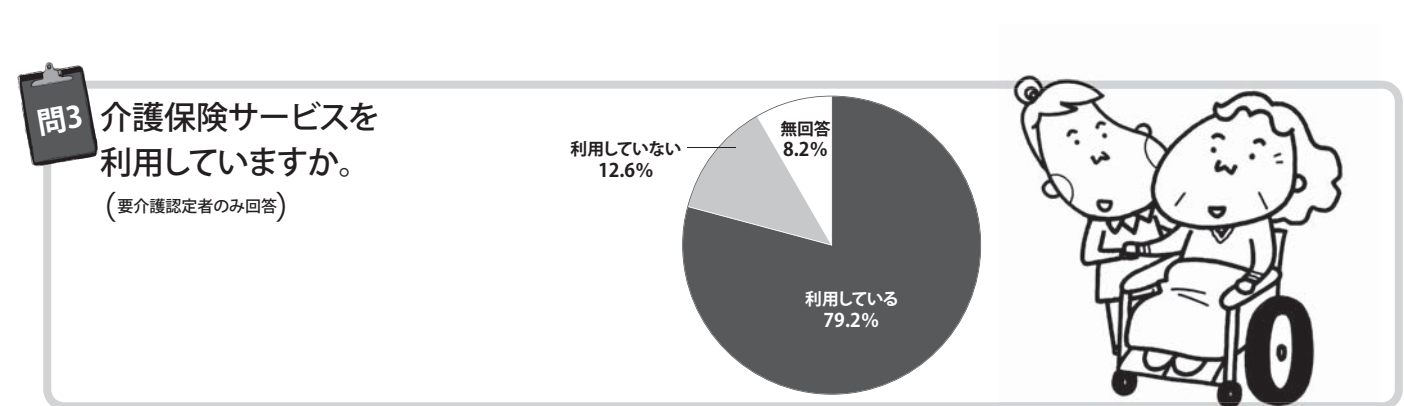
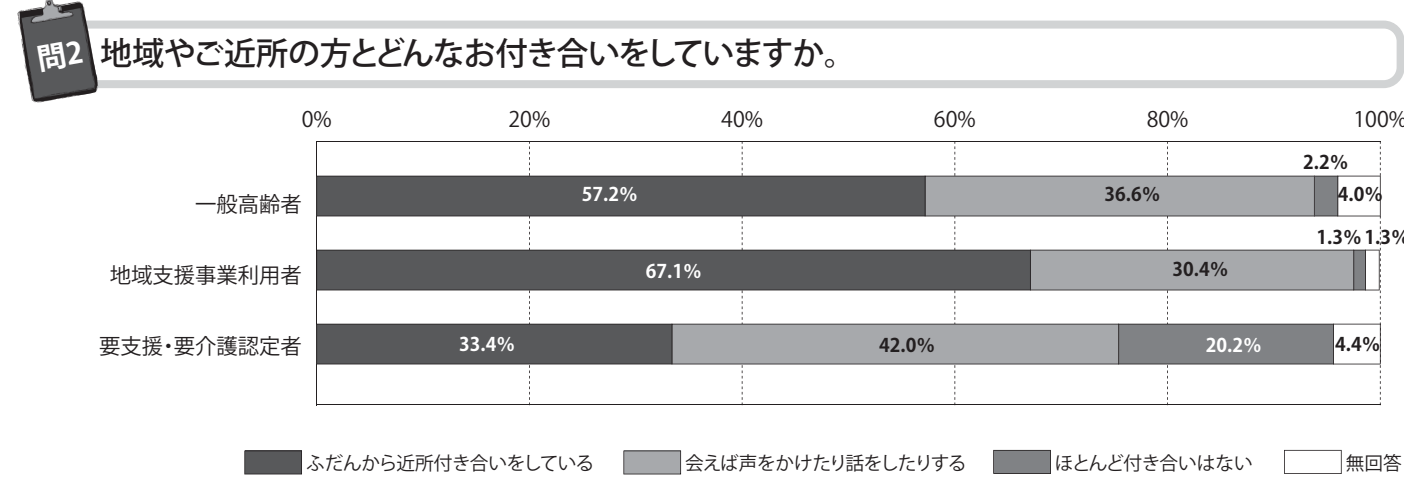
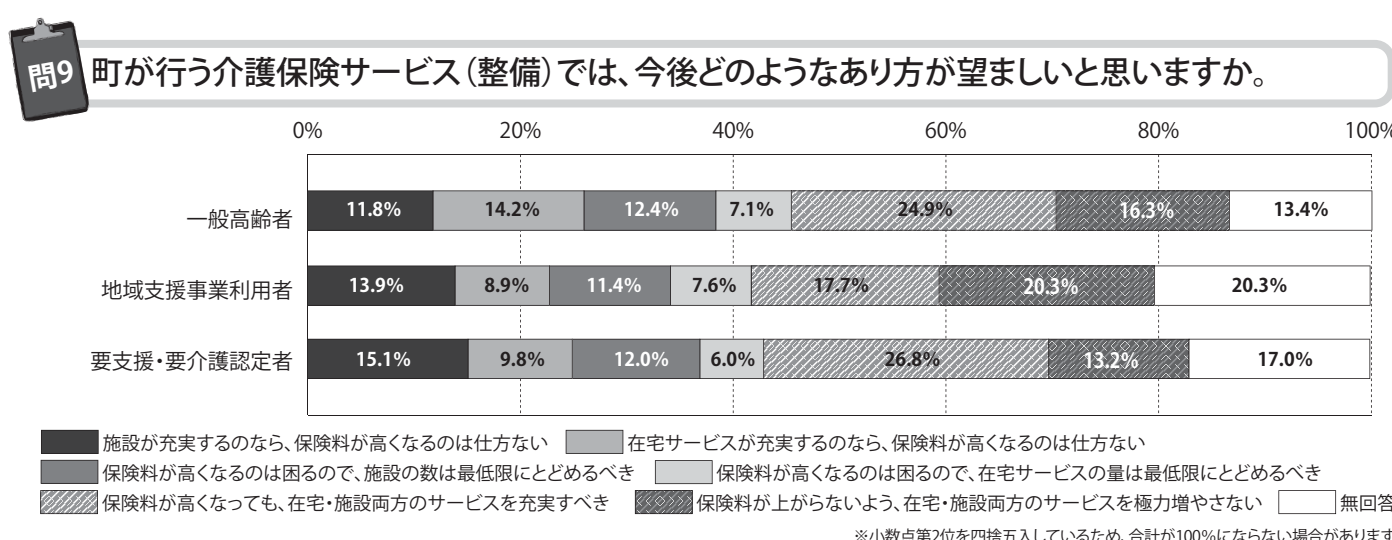
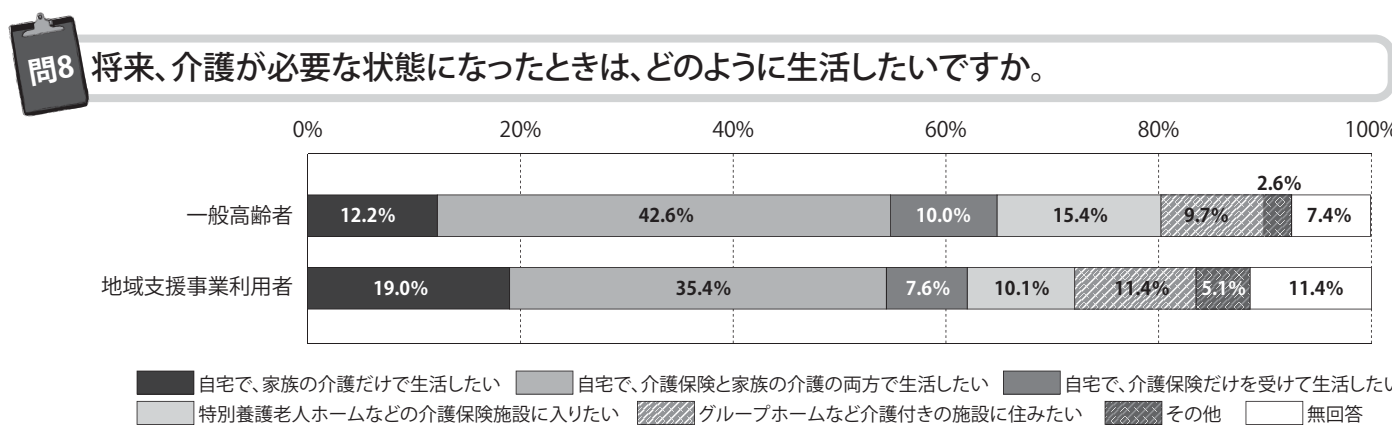
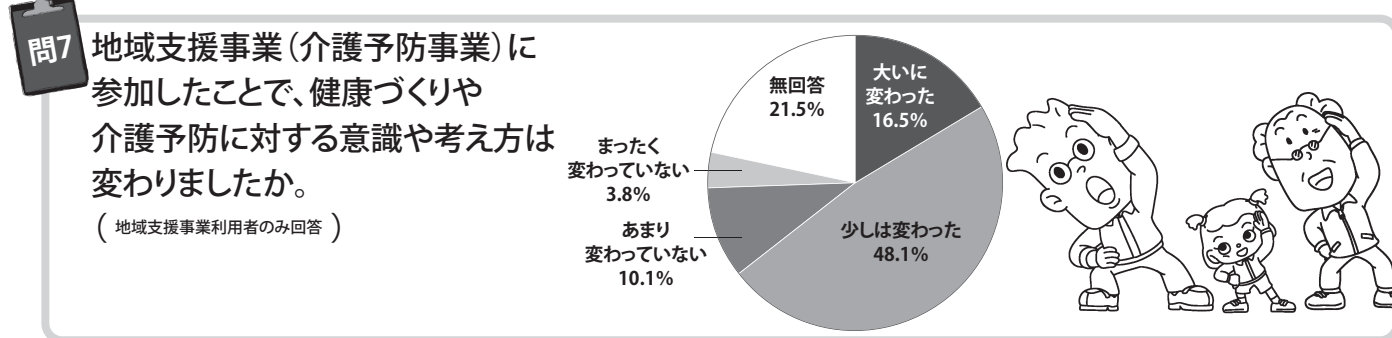
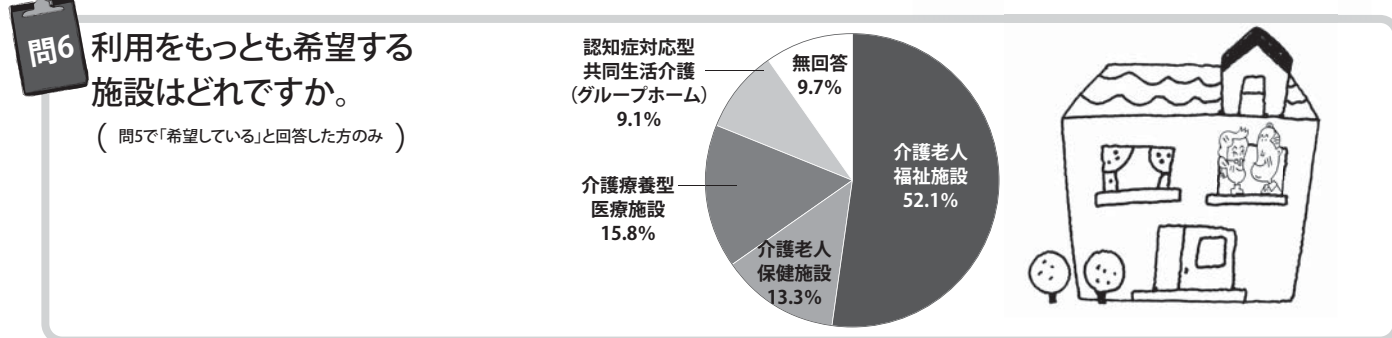
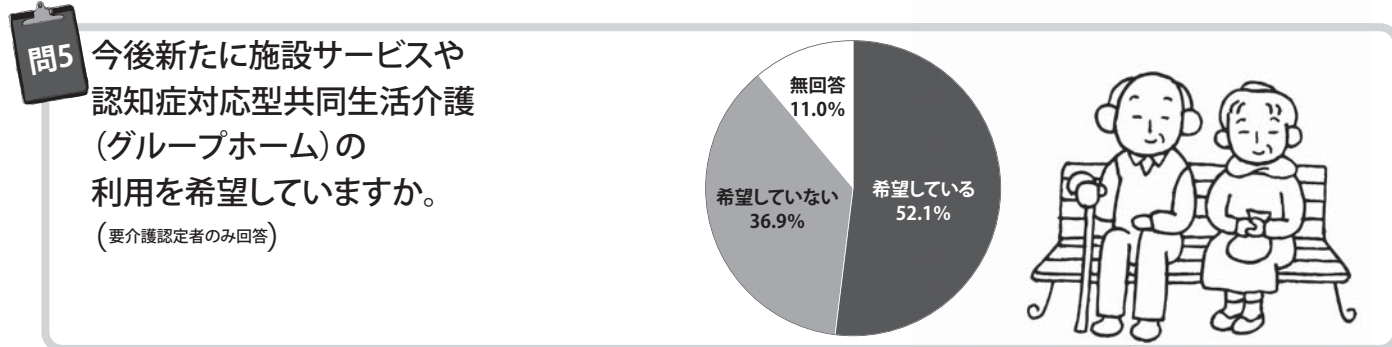
を受けたい人を増やす努力を続けていきたい」、「介護サービスが充実すれば保険料増加につながる。住民アンケートの結果を見て委員会で考えていきたい」などの意見が出されました。また、第二回以降は、アンケート調査の結果や計画骨子、サービス見込量、介護保険料の考え方などについて協議されてきました。

は、さまざまな視点から介護保険を分析するために、六十歳以上の「一般高齢者」、「地域支援事業利用者」、「在宅の「要支援・要介護認定者」の三種類に分けて行いました。アンケートでは、要支援・要介護認定者と地域支援事業利用者に介護保険事業を中心とした質問をし、共通項目として、将来どういった介護を受けたかという「介護観」に関する質問や介護サービスの基盤整備に関する問いなどを設けました。アンケート集計結果の主なものは次のとおりです。町は今後、アンケート調査に寄せられた皆さんの意見や提案を計画に反映させていくとともに、広報紙などによる情報提供に努めていきますのでご理解とご協力をお願いします。

京丹波 No.41 CONTENTS

- 2 新たな「介護保険事業計画」の策定に向けて
- 6 [シリーズ]まちづくりスクエア
—「住民自治組織によるまちづくり」に向けて
- 8 Dr's Message いきいき健康術
- 9 平成21年4月1日から瑞穂病院の名称が「京丹波町病院」に変わります
- 10 いざというときに備えて「火災警報器」を設置して防火対策を
- 11 フラッシュ TOWN NEWS 2009
20年目を迎えた京みず菜栽培の取り組み
—京みず菜20周年記念振興大会
都市計画マスタープランの策定に向けて
—「京丹波町都市計画審議会」が発足
豊かで活力ある地域の実現を目指して
—講演会と源氏物語ひとりものがたり
想像力で描く物語の世界
—「お話を絵にするコンクール」受賞報告会
砂場に響く園児たちの笑い声
—京丹波町建設業協会青年部が保育所などに桜と砂を贈呈
高齢者虐待を防ぐために
—「京丹波町高齢者を守るネットワーク協議会」が発足
オリンピック出場選手から学ぶホッケーの技術
—ホッケー教室と生涯スポーツ講演会

新たな「介護保険事業計画」の策定に向けて



Column まちづくりメモ

協働のまちづくりへ、
職員検討チームが発足

協働のまちづくりの実現に向けて、調査・研究を行う職員の専門チーム「協働のまちづくり職員検討チーム」が、このほど発足しました。同チームは、公募の職員(12人)と選任の職員(2人)の計14人で構成。今年度から本庁と支所に配置しているまちづくり推進担当(6人)が事務局を担当します。

1月30日には第1回会議を開き、松原町長が職員へ委嘱状を交付した後、「普段の業務を持ちながら、このチームにも時間をさいてもらうことになるが、日ごろの仕事や地域の中で、各自が感じている考えや思いを出し合って、存分に議論してほしい」と激励。続いてリーダー、サブリーダーを選出した後、職員たちはさっそく、小グループに分かれ、「住民と行政との協働」について議論を交わしました。

同チームは今後、町の事務事業のあり方を協働の視点で検証するとともに、協働のまちづくりを実現するために必要な仕組みなどを研究・検討。その検討結果を報告書としてまとめ、今年9月をめどに町長に提出する予定です。



町長を交え、住民と行政との協働について議論を交わす検討チームの職員たち。(役場議場)

梅 田地域では各集落、団体が活発な活動をしています。互いの連携はなく単体の活動になっていきます。過疎や少子高齢化が進む中、単体の活動では人材面でいつかは限界がきます。一集落の力だけで地域振興が考えられる時代ではなく、これからは梅田地域全体で農林業や高齢者福祉など、地域の課題を解決していく必要があります。だから、振興会は各集落や団体の連携をはぐくみ、それぞれの活動をつなぐ、いわば「地域コーディネーター」的な役割を果たす組織にしておく必要があると考えています。



Kazumi Morita

梅田地域振興会会長
森田一三さん(鎌谷下)

人材、活動、情報をつなぎ、一体感をつくる
「地域コーディネーター」。それが振興会の役割

Satoshi Nishida



住民自治組織検討専門委員会委員長
西田 哲さん(下大久保)

地 域づくりにとって必要なのは、その地域に住む人びとの意識だと思っています。「アカン、アカン」と言う前に、「今の自分たちに何ができるか」ということを考える意識を、地域の人が持つことが大切であり、そういう人が重要で、新しい振興会は、幅広い人材の参画と互いが連携できる組織にしていきたい、若い世代や女性、地域づくりに関心がある人、元の町職員など多様な人材で地域を見つめ課題を洗い出し、解決策を探っていく、そういう場にしていくと思います。

データ 梅田地域振興会

【設立年】昭和61年
【構成区】坂井・水原・上大久保・下大久保・鎌谷下・鎌谷中・鎌谷奥・東又
【人口・世帯数】1,285人・436世帯(平成20.4.1現在)
【会員】各区長、地域出身の議員、梅田財産区管理委員会委員、公民館長
【主な活動】●集落要望の集約、関係機関への陳情 ●梅の里づくり事業 ●地域振興に関する視察研修など。
【その他】来年度から新体制で組織運営予定。



大切なのは
地域住民の意識。

明俊小学校区内の八集落で構成している梅田地域振興会。各区長や地域在住の議員、財産区管理委員会、公民館長の計十九人が会員となっており、組織を運営しています。設立以来の主な活動は、各集落要望の集約や関係機関への陳情、先進地視察など。近年は、通学ボランティアへの協力・支援や地名にちなんだ「梅の里づくり」(住民へ梅の苗木配布)、町内巡りといったコミニ

↓昨年12月7日に開催された梅田地域づくりシンポジウム。地域住民約40人が参加し、住民自治への理解を深めました。(梅田振興センター、水原)



まちおこしの原点は「宝物さがし」

梅田地域づくりシンポジウム

シンポジウムでは、元京都新聞編集委員で、現地域ジャーナリストとして活躍している中尾祐蔵さんが、「災害の伝承活動とまちおこし」と題して講演。自身が地元(亀岡市篠町)で取り組んでいる平和池水害(昭和26年)の伝承活動を例に、住民が主役のまちづくりの大切さを話し、「まちおこしの原点は『地域の宝物さがし』。地域のかげがえのない大切なものを地域のみなさんで見つけることから始まる」などと語りました。また、この日は先進地・兵庫県丹波市企画部企画課長の余田一幸さんの講演もあり、参加した住民は2人の講演を通じて住民自治に対する認識を新たにしました。

「しかし、何よりも大切なのは地域住民の意識だ」と西田委員長。森田一三会長も「地域づくりに必要なのは、今この地で生活している人びとの、『自分には何ができるだろうか』と考える意識。昨年十二月に開いたシンポジウム(写真上)は、地域のみなさんにそうした意識を持つてもらったための、きっかけづくりだ」と話します。振興会では今後、新しい組織の概要をまとめて住民に説明を行う予定で、来年度総会で新しい規約や事業計画の承認を得て、新たなスタートを切ります。

Series 6
地域づくりが、
未来に輝く
今、始まる。

◎梅田地域振興会

ニティ活動にも取り組んでいます。昨年五月には振興会内部に、役員でつくる「住民自治組織検討専門委員会」を設置。月一回会合を開き、よりよい組織のあり方を検討しています。「幅広い人材の参画と互いが連携できる体制が重要だ」と、西田哲委員長は新しい組織づくりのポイントを示し、①梅田地域の全住民を会員とする開かれた組織、②集落や地域内の多様な団体で構成、③部会を設けて役割分担と幅広い活動など、組織の具体像を話してくれました。

『日本人に多い胃がんと増え続ける大腸がんの予防を』

このコーナーは、町立病院診療所の医師や専門職員がみなさんにお届けする健康情報「コーナー」です。
今回の担当は瑞穂病院の内科医師 平田育大先生。日本人の死亡原因の上位を占めるがんの予防についてのお話です。

第19回

いきいき健康術

Dr's Message

平 成十八年には、男性約二十万人、女性約十三万人が「がん」で亡くなりました。中でも消化器系のがんが多く、男女ともに「胃がん」と「大腸がん」が上位を占めています。

以前から日本人に多い胃がんは、塩分摂取量が多いことやヘリコバクター・ピロリ菌に生息する細菌の一種の感染率が高いことなどが原因として考えられています。また、近年増加の一途をたどる大腸がんは、食生活の欧米化（獣肉食化）や、肥満の増加などがその要因として考えられています。

がんを予防しましょう

胃がんの予防には、塩分の取りすぎに気をつけなくてはなりません。また、大腸がんの予防には、肥満や過量の飲酒、肉食（とくに加工肉）の生活を見直すことが必要です。がんを予防するために、次のことを見直して生活習慣・食生活を見直しましょう。

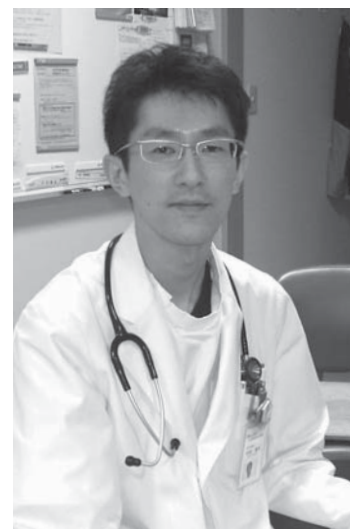
- 《がん予防の十二か条》
- バランスのとれた栄養をとる。
 - 毎日、変化のある食生活を。
 - 食べすぎを避け、脂肪は控える。
 - お酒はほどほどに。
 - たばこは吸わない。
 - 食べ物から適量のビタミンと繊維質のものを多くとる。
 - 塩辛いものは少なめに、熱いものは冷ましてから食べる。
 - 焦げた部分は避ける。
 - カビの生えたものには注意する。
 - 日光に当たりすぎない。
 - 適度に運動をする。
 - 体を清潔に保つ。

検診や検査を受けましょう

多くの方が胃がんや大腸がんにかかりますが、検診で発見し治療すれば約九割の方が治癒しています。がんの検査や治療法は進歩していますので、早期発見・早期治療の機会を逃さないことが重要です。とくに、大腸がんは家族歴が関係しますので、直系の親族に同じ病気の人がいる場合は積極的に検査を受けてください。

一般的な検査方法として、胃がんでは胃X線検査や内視鏡検査、大腸がんでは便潜血検査、全大腸内視鏡検査があり、有効性が確立しています。これらの検査は瑞穂病院においても対応しています。

また、瑞穂病院をはじめ各医療機関では、予防・検査による早期発見・早期治療に努めていますので、みなさんも年に一回、がん検診や検査を受けましょう。



内科医師 平田育大先生 (瑞穂病院) [専門: 消化器内科]

瑞穂病院では、昨年四月から毎月の第二、第四土曜日の午前中に内科と小児科の診療を行っています。
(電話) 86-0220

平成二十一年四月一日から「京丹波町病院」に変わります

瑞穂病院の名称が

みなさんに信頼され親しまれる病院を目指して

京丹波町病院の診療科目はこれまでと同じですが、町民のみなさんから信頼され親しまれる病院となるように、サービスの充実や保健・医療・介護・福祉などの一体的な支援体制、みなさんの健康を守るための体制づくりに取り組んでいます。

また、質美診療所を附属化し一体的な運営体制を築いていきます。

なお、診療科目は毎月の「お知らせ版」に掲載していきます。



※イメージです

瑞穂病院 院長 佐藤秀一郎先生

4月から「国保京丹波町病院」に名称が変わります。京丹波町のみなさんの健康を守る「町の病院」として、以前にもまして、職員一同気持ちを引き締めて頑張りますので、よろしくお願います。

【変更点】

- 病床体制／療養病床は継続し、一般病床は休止します。
- 救急患者／時間外・休日などの救急患者受け入れを原則として中止します。

和知診療所の診療体制見直しにご理解を

和知診療所は、これまでどおり常勤医師二名の体制を維持できるよう努めてきましたが、四月一日から常勤医師一名で運営することとなりました。そのため外来・病棟運営の一部は、京丹波町病院をはじめ近隣の病院との連携を基本として、次のとおり変更させていただきます。

また、高齢化が進む地域の実情や経営改善の観点から、病棟部分については「介護老人保健施設」への転換を進めることとしています。

和知診療所 所長 中村泰也先生

4月から常勤医師が1名になり、何かとご不便をおかけしますが、地域に根ざした医療施設として、これからも職員一丸となって頑張っていきますので、よろしくお願います。

● 当直医師／特別の場合を除き、医師は当直をせずに、必要に応じて指示などを行う「オンコール体制」になります。

いざというときに備えて「火災警報器」を設置して防火対策を

いつ発生するかわからない「火災」。特に、住宅火災はみなさんの大切な生命と財産を一瞬にして奪います。火災への備えでは、「火災を発生させない」事前予防と、「火災を早期に発見する」事後予防に努めることが大切です。今回、町では、みなさんが安心して安全な生活を送れるように「住宅用火災警報器」(警報器)の購入補助を行いますので、日ごろからの予防活動に役立ててください。

町の重要施策として警報器の購入を補助

みなさんは火災に備えてどのような対策を講じていますか。一般的には、「消火器の設置」や「火の元点検」など、火への対策に重点を置かれていると思いますが、いざ火災が発生すれば自分自身の生命を守ることを第一に考えなければいけません。

住宅火災で亡くなられた方の六―七割は逃げ遅れが原因で命を落とされています。火災の発生に早く気がつければ助かった方も多かったのではないかとされています。このような背景から消防法が改正され、住宅火災から大切な生命を守るために、平成二十三年五月三十一日までにすべての住宅で警報器を設置することが義務付けられました。

また、京丹波町では昨年、十件の火災が発生し大切な財産が焼失しました。このような現状を踏まえて町は、住民生活の安心・安全の確保を目指した重要施策として「住宅用火災警報器購入事業補助金交付要綱」を制定し、警報器の普及率向上を目指すこととしました。そして、各区において制度を活用した警報器の共同購入が実施されました。

すみやかに警報器の設置を

警報器の購入費用の一部は町が補助しますが、設置は個人で行っていただく必要があります。警報器が十分に機能するように、次のことに気をつけて台所や寝室、階段の上部などに取り付けてください。

なお、警報器は三月末までに届けられる予定ですので、できるだけ早く設置してください。(個人での設置が難しい場合は、各区や地元消防団で対応されている場合がありますのでお問い合わせください。)

警報器を取り付ける位置

- ①天井に取り付ける場合は、壁などから六十cm以上離す。
- ②エアコンの吹き出し口から一・五m以上離す。
- ③壁に取り付ける場合は、天井から十五―五十cmの間とする。

※詳しくは、二月に配布した「ちらし」を参考にしてください。



警報器の申請を受け付けています

これまでは、区長会の取りまとめに基づき補助申請を受け付けてきましたが、まだ申請されていない方を対象に個別の補助申請を受け付けます。申請方法などは次のとおりですので、該当する方は手続きをしてください。

【申請方法】

対象／町内に住所を有し、所有する住宅がある世帯。
補助対象／煙式か熱式の警報器の購入費用(二世帯で上限二個)
補助金額／一個につき三千円を上限
申請受付／役場と支所に補助申請用紙を設置してありますので、必要事項を記入し提出ください。なお、警報器購入に係る見積書や領収書、機種がわかる書類が必要ですのでご注意ください。

火災に備えた対策を

今回の警報器購入補助は、二世帯に二個を上限としています。しかし、住宅の大きさや母屋と離れがある場合など、二個では対応しきれない場合も考えられます。必要な場合は、できるだけ早期にご家庭で設置いただきますようお願いいたします。また、年に一度は消火器の使用期限を確認するなど、火災に備えた対策を行ってください。

問い合わせ先 総務課消防防災係 82-3800

二十一年目を迎えた京みず菜栽培の取り組み

京みず菜二十周年記念振興大会(一) A 京都京野菜部会和知支部みず菜部会主催)が二月二十七日、和知ふれあいセンターで開かれ、会員ら約六十人が参加しました。

みず菜は、露地栽培が一般的で一株四―五株を超える秋冬野菜でしたが、和知地域が全国に先駆けてハウス栽培による周年の小束出荷を平成元年に開始。同年にブランド認証を取得し、平成三年には部会を設立して生産量の拡大などに取り組まれ、今年で活動開始から二十周年を迎えました。

式典では、同部会長の野間茂夫さん(坂原)が「京みず菜発祥の地として生産量拡大に努めていきたい」とあいさつした後、産地育成に貢献された関係者や歴代部会長への感謝状贈呈と、本年度の優良生産者表彰を実施。その後、京都府中丹東農業改良普及センターの乾多津子副所長が、園部農業改良普及センターに勤務されていたときの経験談などを講演されました。



町長賞を受賞される片山郁夫さん(角)(和知ふれあいセンター・本庄)

都市計画マスタープランの策定に向けて

京丹波町都市計画審議会が二月十日に発足し、役場議場で第一回会議を開きました。

同審議会は、府に指定されている丹波地区内の都市計画区域(約五千九百ha)のまちづくりについて調査・研究することを目的に、各種団体や町会議員、行政関係者ら十五人で組織。会議では、会長に中村忍さん(丹波地区区長会)を選出し、松原町長から諮問された町都市計画マスタープラン案について協議されました。

今後は、マスタープラン案について審議し、その結果を松原町長に答申されます。



会議であいさつする上田副町長(役場議場・蒲生)

豊かで活力ある地域の実現を目指して

瑞穂はあとネットワークの会が主催する「講演会と源氏物語ひとりものがたり」が二月十一日、山村開発センターみずほで開催され、約百二十人が参加しました。

同会は、瑞穂地区内で活動する団体などが相互に連携して地域の活性化を促進することを目的に、瑞穂婦人会など八団体の女性会員が参画して昨年八月に発足。今回、京都府地域力再生プロジェクト支援事業の指定を受けて、会として初めての事業を実施しました。

この日は、瑞穂婦人会瑞穂音頭継承



語りと琵琶演奏による「ひとりものがたり」の公演(山村開発センターみずほ・大朴)

人の動き

農業委員会委員

町農業委員会委員の任期満了に伴う選挙が二月一日に執行され、二月十三日に選挙後初の会議が町中央公民館で行われました。会議において選出された会長、会長職務代理者などは次のとおりです。なお、委員の任期は平成二十四年二月十日までの三年間です。

- 会長／白樫貢(下乙見)
- 会長職務代理者／山田均(保井谷)
- 委員／原澤清(高岡)▼居谷日出男(農協推薦、井尻)▼小林秀雄(口八田)▼小原二郎(井脇)▼小山満(三ノ宮)▼藤田克己(院内)▼森田保(土地改良区推薦、富田)▼田中政明(大倉)
- ▼渡邊昌嗣(下山)▼野間和幸(共済推)

わたしたちの町	
人口	17,162(-7)
男	8,129(+7)
女	9,033(-14)
世帯数	6,498(+4)
3月1日現在()は前月比	

- ▼薦、升谷▼伴田勝(上天久保)
- ▼山内秀夫(質美)▼八木光悦(橋爪)
- ▼平井一三(上野)▼山本眞寿美(議会議長)
- ▼神谷みつ子(議会議長推薦、質志)
- ▼北村和夫(実勢)▼吉田和雄(須知)
- ▼石原哲夫(広瀬)▼野口健一(豊田)
- ▼上田千明(鎌谷)▼谷山正(安井)
- ▼原田論(才原)▼片山晃次(坂原)
- ▼大崎栄美子(議会議長推薦、水戸)
- ▼辰秀雄(小野)▼大門勝美(豊田)



受賞した野間さん(前列の左から2人目)と津田さん(前列の左から3人目)、石田先生(前列の左から4人目)(和知支所・本庄)

想像力で描く物語の世界

「お話を絵にするコンクール」受賞報告会

お話を絵にするコンクール(京都新聞社主催)の受賞報告会が一月二十六日、和知支所小会議室で行われ、入賞者や学校長らが出席しました。

同コンクールは、選定図書を読んだ感じたことを絵にすることで、子どもたちの読書力や表現力を伸ばすことを目的に毎年実施。今回、応募総数十三万九千七百九十四点の中から、「シルケンの冒険」を描いた津田萌夏さん(三ノ宮小・三年)が京都府知事賞を、「木もれ日のむこう」で野間涼司さん(和知小・六年)が京都府町村会長賞を、また、知事賞の津田さんを指導した三ノ宮小の石田奈緒実先生が児童絵画指導者賞を受賞しました。

報告会では、受賞した津田さんが「色の違いを出して、シルケンが魚を描きまわるところを描きました」と話し、野間さんは「とても楽しい話だったので、楽しさを絵にしようと思って描きました」と絵に込めた思いを語りました。

砂場に響く園児たちの笑い声

京丹波町建設業協会青年部が保育所などに桜と砂を贈呈

一月三十日、京丹波町建設業協会青年部が、町内の幼稚園や保育所に桜の苗木と砂場用の砂を贈りました。

この日、下山分園では、部員と園児が一緒に植樹を実施。植樹が終わると園児らは、山盛りになった砂場に走っていき、やわらかい砂山の上で追いかけて遊んで楽しんでいました。



山盛りになった砂場で楽しく遊ぶ園児たち(下山分園・下山)

高齢者虐待を防ぐために

「京丹波町高齢者を守るネットワーク協議会」が発足

京丹波町高齢者を守るネットワーク協議会が二月五日に発足し、瑞穂保健福祉センターで第二回会議を開きました。

同協議会は、年々増加する高齢者虐待を早期に発見し、問題の深

刻化を防ぐことを目的に、警察や消防署、司法・保健・医療・福祉の関係者ら八人で組織。会議では、松原町長から委員へ委嘱状が交付された後、会長に片山勝紀さん(町民生児童委員協議会)、副会長に原澤淑子さん(町人権擁護委員)を選出し、高齢者を取り巻く現状や課題について話し合われました。



会議であいさつする片山会長(瑞穂保健福祉センター・和田)

オリンピック出場選手から学ぶホッケーの技術

ホッケー教室と生涯スポーツ講演会

南丹地区体育協会連絡協議会が二月二十一日、ホッケー女子日本代表でアテネ・北京オリンピックの二大会に出場した岩尾幸美さんを講師に招いて、ホッケー教室と講演会を開催しました。

午前中のホッケー教室は、グリーンランドみずほホッケー場で行われ、南丹地域のスポーツ少年団をはじめ小中高生約八十人が参加。参加した子どもたちは、岩尾さん

の実技を交えた指導を受けて実践で使える技術を学んでいました。また、午後からは山村開発センターみずほで、「地域と掴んだオリンピック」と題した講演会が開かれ、町内外から約七十人が参加しました。



参加者らに指導する岩尾さん(グリーンランドみずほ・大朴)

編集後記

日増しに暖かくなり、季節は別れと出会いが交錯する「春」を迎えています。町内の各学校では、先輩を見送る「卒業式」と、後輩を迎える「入学式」が行われます。編集子には遠い過去の記憶ですが、感動の瞬間を広報紙で伝えられるよう取材に努めたいと思います。

▶編集子になって早くも1年が経とうとしています。最初は毎月発行できるかが心配でしたが、なんとか締め切り前には原稿が完成し、多くのおみなさんご協力により発行することができています。1年間ありがとうございました。これからも広報「京丹波」をよろしく願います。(K)